

ベストクラス選定理由書

作成者：加納史章 杉浦千珠子
藤木裕一 中西あつ子

科目名称 初等算数科教育法 (Bクラス)		(担当教員名：加藤久恵)
課程：学部	開講時期：後期	
授業形態：講義	授業規模：81人以上	
インタビュー対象教員名 加藤 久恵 (実施日時：7月27日(金)16時30分～17時30分；実施場所：総合研究棟3階中会議室)		
インタビュー対象受講者名 和泉 奈津希、松元 海樹、安松谷 宝子 (実施日時：7月27日(金)16時30分～17時30分；実施場所：総合研究棟3階中会議室)		
<p>選定理由</p> <p>【教員へのインタビュー】</p> <p>本授業は、履修者にとって〈学習者〉〈指導者〉の2つの視点で構成されている。〈学習者〉とは、〈算数を楽しむ〉ことであり、履修者自身の過去のイメージの変容を期待している。今までに学んできた、教え込まれて、やり方だけを覚える方法ではなく、〈自分で考える楽しさ〉を感じられるような授業内容が組まれている。次に〈指導者〉とは、〈教材研究を楽しむ〉ことであり、授業準備の大切さから、いろいろな教具を実際に活用し、教師として子ども達に教える際の技術を伝えている。また、授業担当者（以下：担当者）は〈問題を初めて見たときに、子どもがどんな間違いをするかということがわかる〉ことを教師に求めており、子どもが間違いやすい問題の誤答を履修者と一緒に分析している。</p> <p>さらに、座席表を工夫し、履修者に緊張感を持たせつつ、グループワーク等を通して、一人でも問題が〈わかることの楽しさ〉を経験してもらえるよう配慮している。そして、〈算数を好きになってもらいたい〉〈教師として楽しく教えてもらいたい〉という思いから授業を考案し、実践されている。</p> <p>【学生へのインタビュー】</p> <p>〈算数が好きでも嫌いでも楽しめる授業〉。この言葉が本授業の評価を物語っている。授業の中に真剣さや楽しさと同時に、“自由さ”があり、それが学生の意欲を高めている。また、インタビューを行った3名の学生に共通する内容として、〈もし、自分が教えるとなったら、説明はどうやって行うのだろう〉という教師目線で授業を受けていることである。その問いに対して、教具の使い方、指導の仕方、授業づくり等、学生にとって、将来教師になった際役立つことが伝えられている。さらに、ある学生は自身の小学校の体験と重ねあわせて、授業を受ける中で当時悩んでいた理由が判明し、解消されたという。そして、授業の振り返りという点で、配布資料や板書も望むものであったが、〈ノートに書く〉という、自分が学んだことをもう一度言葉に出すことで、授業内容が学生に浸透している様子であった。</p> <p>【総括】</p> <p>本授業の総合評価は3.62ポイントであり、回答者が70名以上ということからも高い評価を得ている。また、自由記述欄からは、履修者が算数で悩む子どもの思考（「わからない仕組み」）を考える機会があり、将来教師として教壇に立つイメージが持てるよう授業展開されている様子が窺えた。さらに、インタビューを通じて、「一人FD」と話しているように、担当者が他の大学教員の授業から学び、自身の授業に取り入れている姿勢は称賛に値する。よって、授業評価の高さ、自由記述欄の具体性、インタビュー内容を勘案し、本授業をベストクラスに相応しいと結論した。</p>		